

# 市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に伴う発掘調査報告—

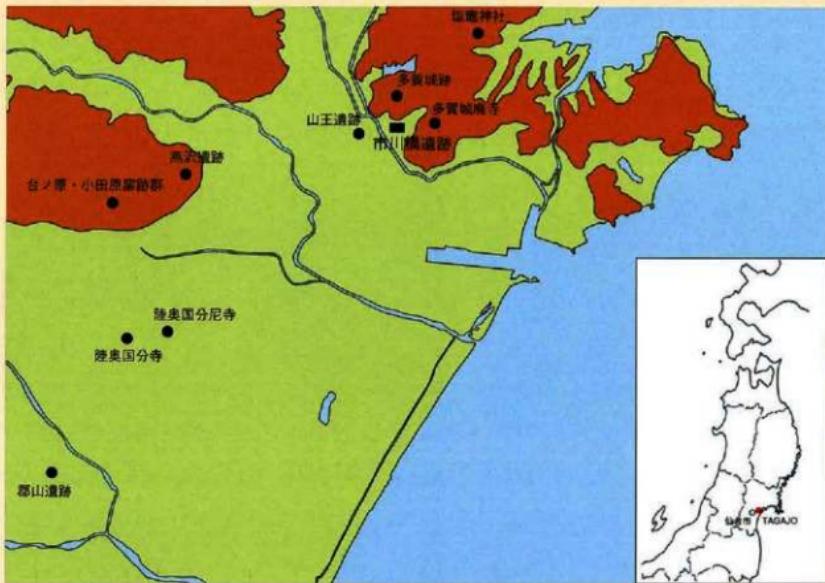
多賀城市教育委員会

多賀城市城南土地区画整理組合

## 1. 市川橋遺跡の紹介

**市川橋遺跡の位置** 市川橋遺跡は多賀城市市川・浮島に所在する。市中央部を南流する砂押川東岸の標高2~3mの微高地上に立地し、特別史跡多賀城跡の南面から西面にかけての南北約1,600m、東西約1,400m、面積約703,000m<sup>2</sup>におよぶ広大な遺跡である。現状は主に水田として利用されている比較的平坦な地形であるが、古代には微高地、湿地、旧河道が入り組んだ複雑な地形であったことが判明している。

**これまでの調査結果** 昭和51年以降、本市教育委員会や宮城県多賀城跡調査研究所、宮城県教育委員会によって発掘調査が実施され、奈良・平安時代の遺構が広い範囲にわたって分布していることが明らかになっている。本遺跡の周辺には北に多賀城跡、東に高崎遺跡、西に山王遺跡、新田遺跡といった古代の遺跡があり、本遺跡を含め大規模な遺跡群を構成している。また、本遺跡では8世紀末には成立したと考えられる幅23mの「南北大路」、本遺跡から山王遺跡にかけては、幅12mの「東西大路」が発見されており、9世紀になるとこれらの道路を基準として東西・南北の直線道路がつくられ、約1町四方の方格地割りが段階的に形成されていくことが判明している。方格地割りは西で南北大路から約1,100m、南で多賀城の南辺築地から約900mまで確認している。東西大路に面した区画には国司などの高級官僚の



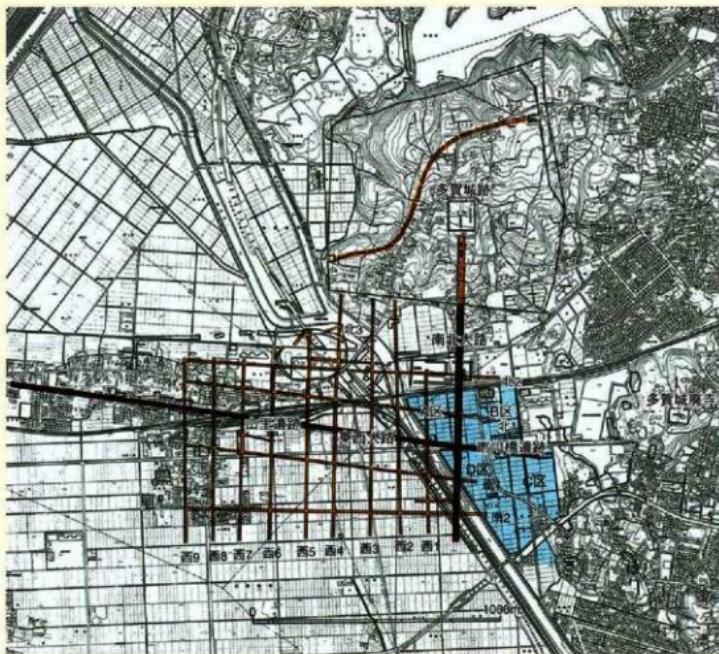
第1図 市川橋遺跡の位置

邸宅、そこから離れた場所には中・下級役人の住まいが設けられ、階級によって宅地の選定が行われていたことなども明らかになっている。

**範囲確認調査の成果** 昨年度より市道新田・高崎線、東北本線、砂押川に囲まれた広い範囲を対象として範囲確認調査を行っている(第23・24次調査)。範囲が広いため便宜的に調査対象地の北西部をA区、北東部をB区、南東部をC区、南西部をD区とした。A区では古代の道路、掘立柱建物、竪穴住居、溝、土壙、河川などを発見している。B区では掘立柱建物、土壙状遺構、溝、井戸、土壙など多数発



確認調査で発見した大型建物



第2図 多賀城城外の方格地割りと調査区

見している。C・D区では古代の道路、掘立柱建物、竪穴住居、溝、土壙、河川などを発見している。特にA区とB区では、桁行11間(約33m)、梁行2間(約6.5m)の大規模な南北棟建物群を発見したことや土壙状遺構など発見したことなど注目された。また、遺物では中国産の白磁・黄釉、綠釉・灰釉陶器などの陶磁器や、天長6年(829年)銘の付札木簡、土製カマド、製塙土器など人々の生活や物の流れを考える上で貴重なものが出土している。

今回の調査は城南土地区画整理事業に伴うもので、調査対象地52,700m<sup>2</sup>のうちA区の840m<sup>2</sup>とB区2,500m<sup>2</sup>の事前調査(第25次調査)を行った。



調査区航空写真

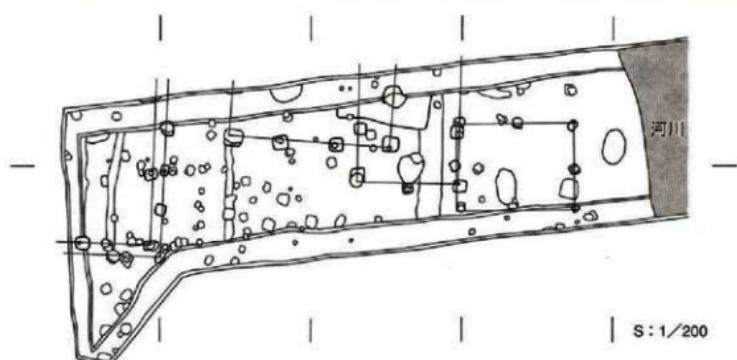
## 2.発見した遺構

### A区の調査結果

A区では範囲確認調査において南北大路・東西大路をはじめとする道路、掘立柱建物、竪穴住居、河川などを発見した。今回調査を実施した場所は調査区北西部の東北本線南側であり、道路部分840m<sup>2</sup>の事前調査を行った。

### 1トレンチ

掘立柱建物5棟、竪穴住居1軒、溝3条、土壙4基、古代から現代までの河川を発見した。このうち河川はトレンチの4分の3を占めている。遺物は河川を中心に多量の土師器、須恵器、赤焼き土器などのほか、人形・曲物等の木製品、鉄鎌、墨書き土器、卜骨、獸骨などが出土した。



第3図 1トレンチ西半部発見遺構平面図



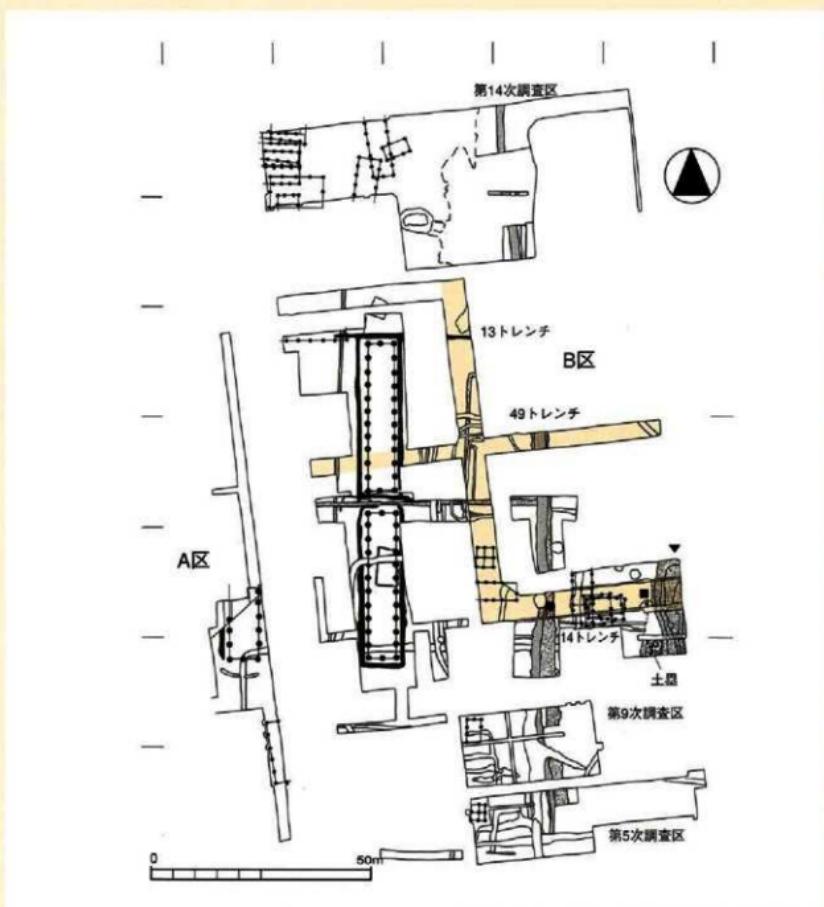
1トレンチ全景（西より）



河川土層堆積状況（東より）

## B区の調査成果

B区の南部、西部では範囲確認調査で大型掘立柱建物をはじめとする掘立柱建物、土壙状造構、竪穴住居、井戸、溝、土壙を発見した。今回の調査でも掘立柱建物、井戸、溝、土壙を多数発見した。しかし、14トレンチ中央部以東は、地盤が低くなっていくことや掘立柱建物などは発見されなかった。このことから、14トレンチ中央で発見した溝(▼)はB区で発見した遺構群の東側を区画するものと考えられる。



第4図 B区遺構配置図

### 13トレンチ

トレンチ南部では掘立柱建物、溝などを多数発見したが、北部では遺構が希薄になっている。遺物は土師器、須恵器、赤焼き土器、灰釉・綠釉陶器のほか、土壙からウマの顎骨などが出土している。遺構・遺物とも9世紀から10世紀代のものである。



赤焼き土器出土状況

#### 13 トレンチ南半部(南より)

掘立柱建物、溝など多数の遺構を発見した



ウマ出土状況

2つの土壙からウマの顎骨が出土した。

#### 13 トレンチ北半部(南より)

北側になるにつれて遺構は希薄になっている

## 14トレンチ

小規模な建物、溝、土壤などを多数発見した。遺物は土師器、須恵器、赤焼き土器、漆付着土器、漆紙文書、墨書き土器、灯明皿、木製盤・皿、施釉陶器などが出土している。9世紀から10世紀代の遺構・遺物がほとんどである。



14 トレンチ西半部(東より)



B区で発見した遺構の東側を区画する溝(▼)



墨書き土器、木製品が多く出土した溝(●)



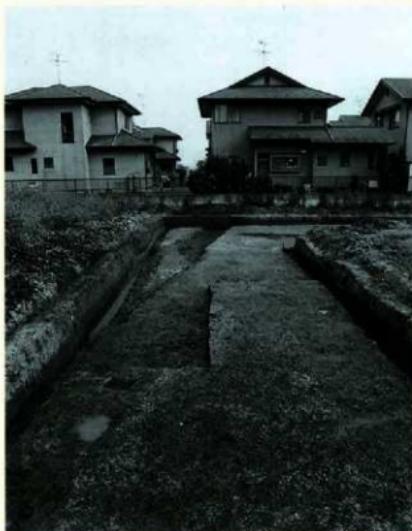
14 トレンチ東半部(西より)



井戸の土層堆積状況(■)

## 15トレンチ

地盤が低く遺構が希薄な場所ではあるが、幅2m、深さ30cmほどの溝2条を発見した。そのうち南北に延びる溝からは木簡(削り屑)、馬形、田下駄などが出土している。年代は出土遺物より、8世紀末から9世紀初頭と考えられる。



15トレンチ全景(北より)

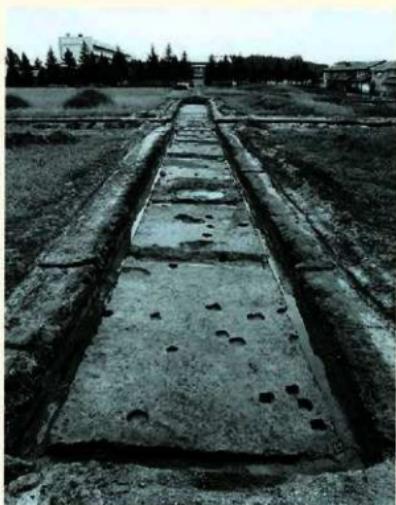
8世紀末から9世紀初頭の溝を発見した。地盤が低いためか建物跡等は発見されなかった。



田下駄出土状況

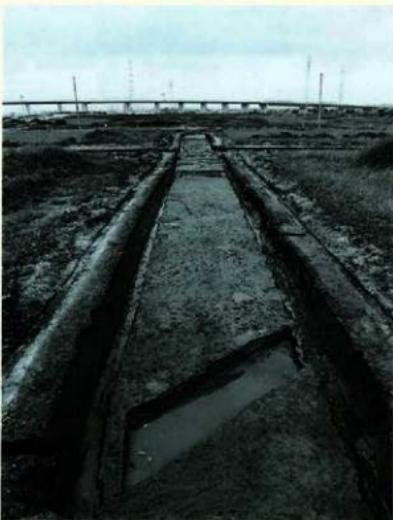
#### 49トレンチ

範囲確認調査で発見した大型建物の一部をトレンチ西部で発見した。一方、東部では地盤が低くなり、一部亜泥炭層の堆積がみられる。遺構は溝2条を発見したのみである。遺構・遺物とも9世紀から10世紀代までものと考えられる。



49トレンチ西半部(西より)

柱穴や溝などを多数発見した。

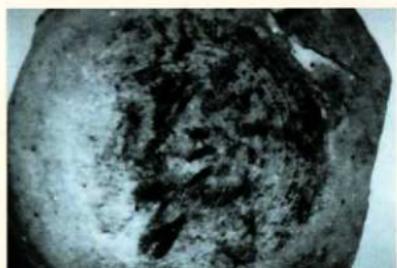


49トレンチ東半部(東より)

東に向かって地盤がゆるやかに傾斜し、遺構が希薄になっている。

### 3.発見した遺物

各トレンチから多種多様の遺物が出土している。特に文字資料が多く、「政所」のように施設を意味する墨書き土器や荷に付けられた付け札木筒、「宅」と墨書きされた木製皿など貴重な資料を発見した。また、穢れや病気など身体の災厄を移し祓い流すために用いられた人形・馬形・吉凶を占った卜骨を発見しており、周辺で祭祀や卜占が行われていた様子がうかがえる。その他、東海地方や畿内から運ばれてきた施釉陶器、漆塗りの作業に使用された漆紙・漆付着土器、灯明皿、役人にとって必需品であった硯、木製の食器・曲物・田下駄なども発見した。



「政所」(赤外線写真)



「政所」



「コ酒杯」



「础上」

墨書き土器1



「大」



「刀」



「秦ヶ」



「不明」



「不明」



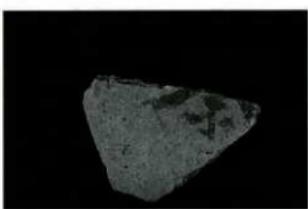
「不明」



「集」



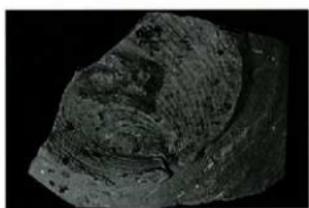
「千」



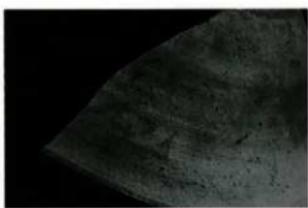
「不明」



「吉」



「田」



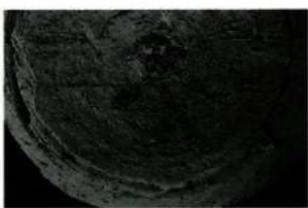
「衣」



「不明」



「不明(赤外線写真)」



「×」

## 墨書き土器2



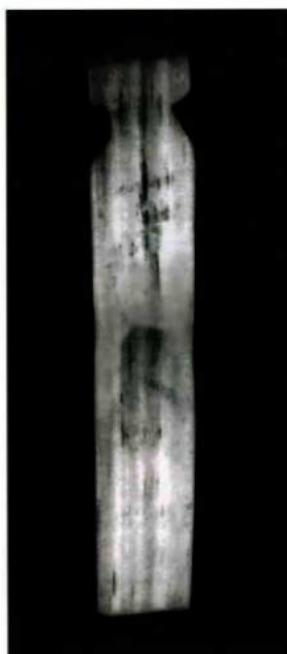
### 木簡

井戸から出土した米の付け札。当時、五斗は1升で、黒春は玄米を意味する。裏面には日付が記されていた。

(14トレンチ井戸跡出土)

积文

「五斗黒春  
・七月廿八日」

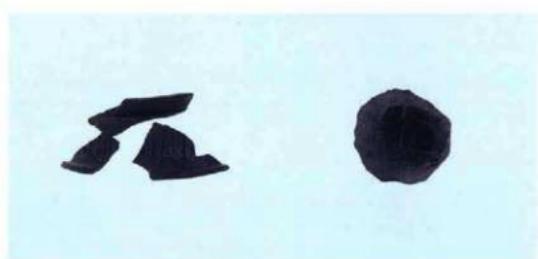


S:原寸  
(赤外線写真)



漆付着・漆紙付着土器(S:1/4)

14トレンチで多数発見しており、付近で塗りの作業が行われていたと考えられる。



鏡(左:円面鏡、右:転用鏡)

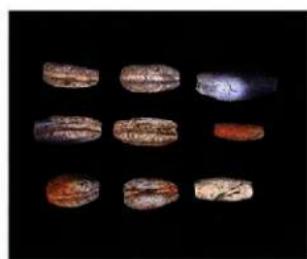
鏡は役人にとって必需品であった。転用鏡は須恵器杯の底部を転用している。

(S:1/4)



灯明皿

(S:1/4)

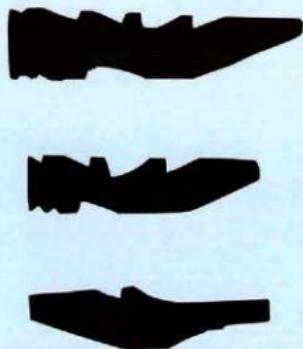


土錠

網に付けたおもり。  
管状のものと側面に凹  
溝をめぐらしたものと  
がある。

(S:1/4)

## 木製品



(S : 1/3)



(S : 1/5)

形代(左:馬形 15トレンチ溝跡出土、右:人形 1トレンチ河川出土)

人間の戯れや病気などを身代わりの人形に移し、穢れを運ぶ馬形などといっしょに水辺に流したと考えられている。



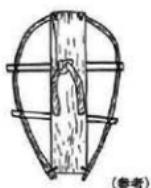
墨書きのある木製皿(赤外線写真)  
底部に「宅」の文字がみられる



皿 (S : 1/3)



曲物 (S : 1/4)



(参考)



田下駄 濡田の中で作業するときに使用した。(15トレンチ溝跡出土 S : 1/4)

今回の調査から報告書作成に至っては、宮城県文化財保護課、宮城県多賀城跡調査研究所、東北歴史資料館、多賀城市城南土地区画整理組合、大木建設株式会社からご指導、ご協力を賜った。また、文字資料は平川南氏(国立歴史民俗博物館)に判読していただいた。

本書の執筆・編集は鈴木孝行が行った。

---

#### 多賀城市文化財調査報告書第57集

### 市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に伴う

発掘調査略報—

平成11年3月26日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368-1141

印刷 今野印刷株式会社

仙台市若林区六丁の目西町4-5

電話 (022) 288-6123

---

表紙：東上空より調査区を望む

